

困苦に会ひたりしは我に善きことなり これによりて我 汝の律法を学び得たり【詩篇 119:71】

第二主日礼拝 午前 11:00-12:00
 (YouTube 同時配信)

前奏・黙祷
 招 詞 詩篇 51 篇 10-13 節 (旧約 985)
 賛 美 スピリット・ソング (教会福音 57)
 交 読 詩篇 37 篇 1-20 節 (旧約 968)
 主の祈り・使徒信条
 聖書朗読 ヨエル書 2 章 12-32 節 (旧約 1554)
 牧者公祷 (換気を行います)
 説 教 『わたしのもとに帰れ』 松井 元始 牧師
 応答のとき
 賛 美 思い悩み 苦しむ者よ (教会福音 424)
 感謝祈祷 (献金の感謝とともに)
 頌 栄 父・子・聖霊の (教会福音 271)
 祝 祷
 後奏・黙祷
 * * *

【献金は週報に添付の封筒を用いて、入口の献金かごにお入れください】

〈司会〉 〈奏楽〉 〈受付〉 〈聖書朗読〉 〈感謝祈祷〉
 松井師 牧子師

配信をご覧になれない方には CD を後日お届けできます。お申し出ください。

インマヌエル王子キリスト教会 牧師:松井元始

〒114-0023 東京都北区滝野川 1-41-6 Tel 03-3910-4529

HomePage: <https://igm-ouji-church.jimdo.com/>

E-mail: immanuelojichurch@gmail.com

銀行振込:みずほ銀行 王子支店 普通 1364893



『わたしのもとに帰れ』 (ヨエル書 2 章 12-32 節) 2021.5.9.

<はじめに> 雨雲の上にも太陽が輝いていることは誰も否定しないでしょう。しかし、眼前に広がる現象・状況には注目しても、その先・背後にあるものを洞察できない人は珍しくありません。ヨエルは主からメッセージを預かり、人々にそれを伝えるために立てられた預言者の一人でした。

I 主の日が来る(1-11)

①雲と暗黒の日

イナゴ類の襲来を軍隊の侵攻に例えて描いています(1-11)。未曾有の災禍は豊饒の園を荒野に変え、地は震え、天体の輝きも隠し、人の防御・抵抗も乗り越えて圧倒的な威力で蹂躪します。諸国の民はもたえ苦しみ、その先の死の恐怖に震えおののきます。

②主の日は近い

この災禍の描写は主の日の予表・しるしです。主の審判は確実に訪れます。人はそれに抵抗できません。今、目の当たりを見る災禍に優るとも劣らない、前代未聞の厳粛な時がすべての人に訪れます。だれがこの日に耐えられるだろう(11)、と預言者は叫びます。

③先頭に立つ主(11)

1 節の号令は主の声です(11)。その声に災禍をもたらす軍勢は一气呵成に襲い掛かります。私たちが直面する苦難・試練の背後に、主が確におられます。来たるべき主の日を前に、主は私たちに真剣に向き合い、大切なことを示そうと先頭に立たれます。

II しかし、今でも(12-17)

①「わたしのもとに帰れ」(12-14)

災禍をもたらされた主は、民に呼び掛けます。預言者はその言葉を継いで、主の豊かなあわれみと恵みを指し示します。「心を引き裂け」は現状を悲しむだけでなく、主に対する真剣な悔い改めの告白です。その促しに応じる真摯な者を主は思い直してくださいます。

②シオンでの角笛(15-16)

災禍の侵攻の角笛(1)は、同時に主の民へのきよめの集会の招集の角笛(15)です。断食は真に必須なものに心を向ける営みです。年代・性別・立場を越えて、あわれんでくださる主にすがり求める者を集め、共に主に近づき祈ることは、状況打開のカギです。

③祈りを導く預言者(17、ロマ 8:26)

非常時にどう祈っていいのかわからず、執り成す祭司さえ分からなくなっていたのでしょうか。預言者は彼らの祈りを導きます。弟子が祈りを教えてください、と言ったとき、主は「こう祈りなさい」と主の祈りを導かれました。状況に適った祈りの言葉を蓄えているのでしょうか。

III 主の日に続く物語(18-32)

①主は答えられた(18-24)

主はご自分に属するものをねたむほど愛し、深くあわれまれます。神の不朽の品性です。主は彼らの祈りに応えて、災いを遠ざけ(20)、雨を降らせて(23)地は再び産物を生じ(19,22)、人々を労働と収穫の喜びで満たされます(24)。主の大いなる御業です(21)。

②主を知る(25-27)

災禍を与えた主が「あなたがたに償う」とは、どういうことでしょうか。そこから主とはどういう御方と分かるでしょうか。主による生活の回復で満足してはなりません。あわれんでくださった主の名をほめたたえ、すべてにまさる神、主がともにおられることを心に刻むのです。

③わたしの霊を注ぐ(28-32)

老若男女すべての人に、主はわたしの霊を注がれます。これはペンテコステ(使徒 2 章)で実現する預言です。霊を注ぐとはどういうことか、注がれた私たちはどうなるのでしょうか。夢・幻は、儚い不確かな人由来のものではなく、神である主が見せてくださるものです。

<おわりに> 主の日の二面性を主を知る者は弃えています。主の大いなる恐るべき日(31)にも、主の御名を呼び求める者はみな救われます。そして厳粛な主のさばきと報いが進む中にも、主が呼び出す者(32)を主は残されます。私がおの一人になれますように。(H.M.)